

平成 22 年 12 月 9 日

12 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

○ 所長の横村でございます。本日は、私の方から 2 点申し上げます。

○ まずは、プラントの状況についてです。

5 号機につきましては、11 月 17 日に地元自治体から運転再開についてご了解をいただいたことから、翌 18 日には原子炉を起動し、11 月 25 日には発電を開始して、12 月 6 日より定格熱出力にて運転を行っているところです。この間、原子炉起動や発電開始、各出力段階等において、地震後の影響がないかなどについて評価を行ってまいりましたが、いずれの段階においても評価結果に問題がないことを確認し、現在まで順調に進めてきております。今後も、引き続きプラント全体の機能試験を一つ一つ着実に進めてまいります。

3 号機につきましては、11 月 16 日から系統機能試験を開始し、全 26 項目の試験のうち、燃料を装荷する前までに行う試験としてディーゼル発電機の機能試験など 6 項目について行い、問題がないことを確認いたしました。

その後、12 月 1 日より燃料装荷の作業を開始いたしましたが、燃料装荷にあわせて、制御棒を駆動させる水圧制御ユニットの復旧作業を行っていた際に、1 本の制御棒が僅かに動作する事象が確認されたため、現在、原因調査を進めております。本件については、近々ご説明できるものと考えております。このため、燃料装荷につきましては、一時的に作業を中断しております。

7 号機につきましては、湿分分離加熱器の凝縮水タンク下流に設置された弁からの漏えいが確認されたことから、発電機出力を下げ、補修作業を実施してまいりましたが、その後、出力上昇操作を行い、昨日、定格熱出力に復帰いたしました。現在、安定運転を行っております。

また、7号機の使用済ハフニウムフラットチューブ型制御棒でひびが認められた件につきましては、昨日お知らせしました通り、これまでに確認されたひびは、いずれも構造強度に係る健全性評価や制御棒の挿入性等の技術基準適合性を含む安全性の評価に問題はないことを確認しております。

今後、外観点検の結果やひびの発生原因などを最終的な評価結果として取りまとめ、原子力安全・保安院へ報告するとともに、お知らせしてまいります。

○ 2点目は、「ふれあい訪問」活動の実施状況についてです。

当発電所では、先月29日～12月10日までの約2週間の予定で、当社社員述べ約170人が地域の皆さまのご家庭を訪問させていただき、地域の方々の声を直接お聴きする「ふれあい訪問」活動を実施しております。

私自身もこの「ふれあい訪問」に参加し、地域の皆さまから発電所へのご意見やご要望など直接の声をお聞きしました。具体的には、「広報誌は毎回楽しみにしています」、「全号機運転して活気をもどしてください」、「蒸気漏れなどがあつたりしたので、慎重に進めてください」とのお話をいただいております。

当発電所といたしましては、今後もこうした機会を大切に、地域の皆さまの声や思いをお聴きし、発電所の業務運営にしっかりと反映してまいります。

○ 最後に、5号機は中越沖地震後4基目のプラントとして運転を再開しました。これもひとえに、これまでの3年半にわたる間、報道関係の皆さまをはじめ、国や自治体関係者の皆さま、これまでにご支援いただきました地域の皆さま、そして関係者の皆さまのお陰であり、あらためて厚く御礼申し上げます。また、これまでに点検・復旧に尽力されてきた発電所員や協力企業の方々へも感謝している次第です。

○ 今後も安全を第一に、5号機のプラント全体の機能試験や残るプラントの点検・復旧作業に尽力してまいります。

○ 本日、私からは以上です。

以上

添付) 柏崎刈羽原子力発電所DATA BOX

プレス公表 (運転保守状況)

# 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成22年12月)

平成22年12月9日

## ① 発電所運転状況

| プラント名                          | 現在の<br>運転(発電)状況                                    | 前回定期検査  | 過去1年間の運転状況    |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 補足説明   |
|--------------------------------|--|---|---------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|--|
|                                |  |   | 1             | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |  |
| 1号機<br>110万kW<br>(S60.9.18運開)  | 運転中  | 第15回 H19.5.4～H22.8.4<br>停止期間 H19.5.4～H22.6.6 (1130日)<br>(原子炉起動H22.5.31)                               | 第15回定期検査による停止 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |  |
| 2号機<br>110万kW<br>(H2.9.28運開)   | 第12回定期検査中<br>定検停止期間:H19.2.19～                      | 第11回 H17.9.3～H18.5.9<br>停止期間 H17.9.3～H17.12.25 (114日)<br>(原子炉起動H17.12.22)                             | 第12回定期検査による停止 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |  |
| 3号機<br>110万kW<br>(H5.8.11運開)   | 第10回定期検査中<br>定検停止期間:H19.9.19～                      | 第9回 H18.5.12～H18.9.15<br>停止期間 H18.5.12～H18.7.27 (77日)<br>(原子炉起動H18.7.24)                              | 第10回定期検査による停止 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |  |
| 4号機<br>110万kW<br>(H6.8.11運開)   | 第10回定期検査中<br>定検停止期間:H20.2.11～                      | 第9回 H18.4.9～H19.1.11<br>停止期間 H18.4.9～H18.12.14 (250日)<br>(原子炉起動H18.12.11)                             | 第10回定期検査による停止 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |  |
| 5号機<br>110万kW<br>(H2.4.10運開)   | 第12回定期検査中<br>定検停止期間:H18.11.24～H22.11.25<br>現在調整運転中 | 第11回 H17.7.4～H17.11.2<br>停止期間 H17.7.4～H17.10.8 (97日)<br>(原子炉起動H17.10.8)                               | 第12回定期検査による停止 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 【5号機】<br>・11月25日に発電開始。(お知らせ済み)<br>・12月6日に定格熱出力一定運転開始。(お知らせ済み)  |
| 6号機<br>135.6万kW<br>(H8.11.7運開) | 第9回定期検査中<br>停止期間:H22.10.31～                        | 第8回 H19.5.24～H22.1.19<br>定検停止期間:H19.5.24～H21.8.31 (831日)<br>H21.12.26～H22.1.8 (14日)<br>(原子炉起動H21.1.6) | 第9回定期検査による停止  |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 【7号機】<br>・10月1日から漏えい燃料周辺の制御棒6本を挿入した状態で、定格熱出力一定運転中。(お知らせ済み)<br>・11月6日、11月24日にハフニウムフラットチューブ型制御棒の動作確認を実施し、「異常なし」。次回の動作確認予定は12月下旬。<br>・復水器室(管理区域)における水漏れの漏えい箇所を補修するため、11月23日より出力を下げていたが、補修作業の完了に伴い出力を上昇し12月8日から定格熱出力一定運転中。 |
| 7号機<br>135.6万kW<br>(H9.7.2運開)  | 運転中  | 第9回 H22.4.18～H22.7.23<br>H22.4.18～H22.6.28 (72日)<br>(原子炉起動H22.6.26)                                   | 第9回定期検査による停止  |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |  |

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

## ② 発電所設備利用率(%) (11月末現在)

|         |       |
|---------|-------|
| 11月     | 29.7% |
| 22年度累計  | 35.7% |
| 運転開始後累計 | 64.8% |

## ③ 発電所発電電力量(万kWh) (11月末現在)

|         |            |
|---------|------------|
| 11月     | 175,565    |
| 22年度累計  | 1,718,278  |
| 運転開始後累計 | 83,422,538 |

## ④ ドラム缶発生量(本) (H22年度第2四半期)

|           |        |
|-----------|--------|
| 当期発生本数    | 966    |
| 貯蔵庫累積貯蔵本数 | 30,533 |
| 貯蔵庫保管容量   | 45,000 |

## ⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H22年度第2四半期)

|                |        |
|----------------|--------|
| 使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数 | 12,820 |
| 使用済燃料貯蔵プール管理容量 | 16,915 |
| 使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量 | 22,479 |

## ⑥ 構内従業員データ(人) (12月1日現在)

|           |     | 東京電力  | 協力企業  | 比率  |
|-----------|-----|-------|-------|-----|
| 県内        | 柏崎市 | 869   | 2,949 | 50% |
|           | 刈羽村 | 83    | 271   | 5%  |
|           | その他 | 105   | 1,095 | 16% |
|           | 小計  | 1,057 | 4,315 | 70% |
| 県外        |     | 95    | 2,173 | 30% |
| 合計        |     | 1,152 | 6,488 | —   |
|           |     | 7,640 | 100%  |     |
| 協力企業社数(社) |     | 919   |       |     |

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が含まない場合がある。

## ⑦ 来客情報(人) (11月末現在)

|    | 11月   | 年度累計   |
|----|-------|--------|
| 地元 | 1,231 | 14,411 |
| 県内 | 1,218 | 12,008 |
| 県外 | 4,206 | 25,568 |
| 国外 | 134   | 616    |
| 合計 | 6,789 | 52,603 |

## ⑧ 今後の主なスケジュール

| 予定日           | 内容  |
|---------------|---|
| 11月29日～12月11日 | ふれあい訪問  |
| 12月12日        | どうでん 今. 話. 会. (柏崎市民プラザ 海のホール)<br>「整理収納術 ～お正月をすっきり迎える～」講師:飯田 久恵  |
| 12月16・17・18日  | テディベア教室<br>【柏崎会場】12月16・17日 (柏崎エネルギーホール)<br>【刈羽会場】12月18日 (き・な・せ) |
| 12月18日        | Comfy サイエンススクール (カムフィー)   |
| 12月25日        | そばうち体験教室(き・な・せ)   |
| 1月13日         | 次回定例所長会見予定  |

インターネットホームページアドレス  
http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html

東京電力株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所  
広報部  
0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）  
～中越沖地震関連を除く～

平成22年12月9日  
定例所長会見資料

| No. | お知らせ日  | 号機  | 件名                                       | 内容  |
|-----|--------|-----|--|---|
| ①   | 11月12日 | 1号機 | 原子炉冷却材浄化系ポンプ（B）室（管理区域）における水漏れについて（区分Ⅲ）続報 | <p>（事象の発生状況）<br/>定格熱出力一定運転中の1号機において、原子炉建屋地下4階の原子炉冷却材浄化系ポンプ（B）室（管理区域）で、配管への水張り作業を行っていたところ、水張り時に使用する空気抜き用配管につながる排水口から水（一部蒸気化）が漏れ出て、ポンプ室に漏えいしました。<br/>その後、配管への水張り作業のために開いていた空気抜き用配管の弁を閉めたことにより、水漏れは停止しました。<br/>今回の事象により、漏れ出た水（一部蒸気化）が再び凝縮し、ポンプ室床面に溜まりましたが、水は漏えいの拡大を防止するための堰内にとどまっており、堰内の床面に溜まっていた水の量は約9リットル、放射エネルギーは約<math>1.1 \times 10^7</math>ベクレルでした。<br/>床面に漏れた水については、同日、拭き取りによる清掃を実施しております。（公表区分Ⅲ：平成22年11月10日お知らせ済み）</p> <p>今回の水漏れ事象が発生した際に、排気筒モニタに変動がないこと、発電所敷地境界に設置され空間線量率を測定するモニタリングポストやダスト放射線モニタの指示値に有意な変動がなく、環境への影響がないことを確認しておりますが、その後、今回の水漏れによる影響を確認するため、排気筒モニタのサンプリングラインに設置している放射性物質を捕集するためのフィルタについて、通常は1週間に1回測定を行うところ、今回速やかにフィルタを回収し測定を行いました。</p> <p>（安全性、外部への影響）<br/>測定の結果、放射性のよう素や粒子状物質は検出されませんでした。放射線量のよう素を捕集するフィルタの測定において、ごく微量のヒ素76が検出（検出限界値<math>1.6 \times 10^{-8}</math>ベクレル/cm<sup>3</sup>に対し、測定値<math>1.9 \times 10^{-8}</math>ベクレル/cm<sup>3</sup>）されました。<br/>ヒ素76は半減期が1.1日と短いため、周辺環境における線量への影響も小さく、今回検出された放射線濃度をもとに線量評価を行った結果は約<math>9 \times 10^{-11}</math>ミリシーベルトです。これは、自然界から1年間に受ける放射線量2.4ミリシーベルトと比べても十分低い値であり、胸のエックス線検診（1回）で受ける放射線量（0.05ミリシーベルト）の約5億分の1です。</p> <p>（対応状況）<br/><u>漏えい原因の調査を行った結果、手順書には、通常時は水張りのための系統の水圧が原子炉内の圧力よりも高いことから、水が漏れた排水口につながる空気抜き用配管の弁を全閉にしない状態で、原子炉と原子炉冷却材浄化系ポンプをつなぐ配管の弁を開く手順となっていたことがわかりました。</u><br/><u>運転員の水張り作業は定められた手順書どおりに行われておりましたが、原子炉と原子炉冷却材浄化系ポンプをつなぐ配管の弁を開いた際、空気抜き用配管の弁が全閉になっていなかったため、配管内に水流による圧力損失が生じ、水張りのための系統の水圧が原子炉内の圧力よりも低くなり、原子炉から原子炉冷却材浄化系に流れる水が、空気抜き用配管を通じて排水口から漏れ出たことがわかりました。</u><br/><u>対策として、今回の水張り作業の操作に伴うリスク等を多面的に検討したうえで、運転中に原子炉冷却材浄化系配管に水張りを行う際は、排水口につながる空気抜き用配管の弁を全閉にした状態で、原子炉と原子炉冷却材浄化系ポンプをつなぐ配管の弁を開くよう、手順書の見直しを行いました。</u><br/><u>また、今後、人身・設備安全に関わる保全作業、高温・高圧水に関わる作業など、リスクの大きい作業を実施する場合、関係者にてリスク等を多面的に検討し、作業内容や操作手順の妥当性などを確認することといたします。</u></p> <p>水漏れ後にヒ素76が検出された件については、11月16日の定例測定では検出されませんでした。したがって、ヒ素76は今回の水漏れに伴い、一部蒸気化した水に含まれていたものが換気空調系から排気筒に至った可能性があるものと推定いたしました。</p> <p>なお、11月26日に原子炉冷却材浄化系ポンプ（B）は運転を開始しております。</p> |

プレス公表（運転保守状況）  
～中越沖地震関連を除く～

平成22年12月9日  
定例所長会見資料

| No. | お知らせ日                      | 号機  | 件名   | 内容  |
|-----|----------------------------|-----|--|---|
| ②   | 11月22日                     | 7号機 | 柏崎刈羽原子力発電所における使用済制御棒の点検状況について<br>(区分その他) 続報その2 | <p>当所では、7号機の使用済燃料プールに保管している使用済ハフニウムフラットチューブ型制御棒1本(管理番号005)のタイロッドの中央部1箇所に、連続していないものの、ほぼ全周にわたって微細なひび(最大幅約0.3mm)を確認したことから、当所4号機、5号機、7号機で保管している同型の使用済制御棒のタイロッドの外観点検を実施することとし、11月1日から外観点検を開始しました。当所7号機では、現在、原子炉内において同型制御棒25本を使用しておりますが、11月6日に、全挿入されている2本を除いた23本の同型制御棒について動作確認を実施した結果、正常に動作することを確認しております。また、11月10日には、7号機の使用済制御棒2本(管理番号015、016)に新たにひび(最大幅約0.3mm)を確認いたしました。制御棒の構造健全性および制御棒挿入機能は確保されており、安全上の問題がないことを確認しております。(平成22年11月1日、8日、10日お知らせ済み)</p> <p>その後、調査を継続してまいりましたが、これまでに、7号機の使用済制御棒2本に新たなひびを確認いたしました。新たにひびが確認された2本の使用済制御棒のうち、1本(管理番号049)には、タイロッドの中央部付近に、それぞれ2箇所にひび(最大幅約0.2mm)が認められましたが、いずれも従来から確認されているものと同じ形状のひびであり、制御棒の健全性には問題はありません。</p> <p>また、他の1本の使用済制御棒(管理番号031)には、タイロッドの中央部付近12箇所にひびが認められましたが、いずれも、これまでに他の使用済制御棒で確認されているひびの長さよりも短く、幅も最大で0.05mm程度とごく微細なものです。12箇所のひびは、タイロッドとシースの溶接部近傍にあり、このうち3箇所では、タイロッドに溶接しているシースのごく一部まで短いひびが繋がっておりますが、シースの大部分についてはひびがなく健全であることを確認しております。念のため、ひびの数や長さ等を厳しく(タイロッドの溶接部全てに破断を想定し、かつシースにもひびが進展している状態を想定)評価しても、制御棒の構造健全性および制御棒挿入機能は確保され、安全上の問題がないことを確認しており、制御棒の健全性には問題はありません。</p> <p>なお、最初にひびを発見した使用済制御棒1本(管理番号005)については、現在、外部の照射後試験施設において破面観察を進めており、これまでに応力腐食割れに特徴的な粒界破面が確認されております。引き続き、原因調査を進めてまいります。</p> <p>当所は、今後も引き続き、月に1回の頻度で、7号機で使用中の同型制御棒23本の動作確認を実施するとともに、現在保管している同型の使用済制御棒の外観点検を実施して、ひびの有無の確認を行い、調査結果についてはとりまとめてお知らせする予定です。なお、外観点検の結果、これまでに確認されていない形状のひびの発見等により新たに評価が必要となる場合には、速やかに使用済制御棒の健全性を確認するとともに、個別にお知らせしてまいります。</p> |
| ③   | 11月17日<br>11月22日<br>11月25日 | 7号機 | 復水器室(管理区域)における水漏れの対応状況について<br>(区分Ⅲ) 続報         | <p>(事象の発生状況)<br/>定格熱出力一定運転中の7号機において、平成22年11月16日午後1時30分頃、パトロール中の当社社員が、タービン建屋1階の復水器室(管理区域)において、湿分分離加熱器凝縮水回収タンクの下流に設置されている逆止弁付近の配管保温材から水が床面に滴下していることを発見しました。滴下した水は漏えいの拡大を防止するための堰内にとどまっておらず、堰内の床面に溜まっていた水の量は約4リットル、放射能量は約<math>1 \times 10^6</math>ベクレルでした。また、当該場所の空気中放射性物質濃度を測定した結果、粒子状物質およびヨウ素は検出されませんでした。床面に漏れた水は、同日中に、拭き取りによる清掃を実施いたしました。併せて、受け皿を設置するとともに、監視カメラによる漏えい状況の監視、ならびに空気中放射性物質濃度の監視を強化しながら、運転を継続してまいりました。配管の保温材を取り外し、漏えい箇所を確認した結果、当該逆止弁のサイドプラグ部からの漏えいと特定いたしました。漏えいの原因は、サイドプラグのシール部の劣化によるものと推定し、漏えい箇所を補修することといたしました。(平成22年11月17日、22日お知らせ済み)</p> <p>その後、11月23日午後10時30分頃より、発電機出力を約70万キロワットまで降下させ、サイドプラグ周辺を溶接し漏えい箇所の補修を完了いたしました。</p> <p>(安全性、外部への影響)<br/>本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>(対応状況)<br/>補修作業が完了したことから、11月25日午後5時より、発電機出力の上昇操作を開始し、12月8日午後1時に定格熱出力に復帰いたしました。</p>  |